

大塚智彦著「飛躍するインドネシアー大空へ羽ばたく神鷲ガルルダー」

じゅん刊 世界と日本 No.1222 内外ニュース 2013年1月1日刊を読む

飛躍するインドネシアー大空へ羽ばたく神鷲ガルルダー

1. ギリシャ、スペイン、イタリアなどの経済危機の影響で冷え込む欧州経済、リーマンショック、プライムレート、GM 破綻と世界を牽引してきた米経済が失速。12年11月に再選を果たしたオバマ大統領も当面の最大課題である「財政の崖」の回避に即座の対応を余儀なくされている。そんな中、東南アジアは「元気一杯」にみえる。特にインドネシアは海外からの投資、企業の進出、貿易拡大という経済面の安定、国際社会や地域共同体で重要な地位を占めながら、社会的には国内のテロ組織の摘発、撲滅も効果を上げ、政治的には民主化をさらに進化・成熟させる中で14年の大統領選に向けて盛り上がりを見せている。
2. 「昨日のこと忘れました。明日のこと知りません」という典型的な東南アジアの人々の生き方。そこには「だから今日・ここ・自分を一生懸命に生きる」という、ひたむきなエネルギーに溢れた生き方がある。「反省も展望もない行き当たりばつりの刹那的、自己満足な生き方に過ぎない」と批判することは容易だが、それは日本、日本人の物差しで計った結果。東南アジア各国には、その国の独自の時間が流れ、独自の物差しがあり、独自の言葉が話され、独自のエネルギーが満ち、独自の心が通っているということを、旅行者、出張者そして現地で生活する日本人は理解することが大切だ。
3. 11年6月18日、日本を訪問したユドヨノ大統領は東日本大震災の被災地、宮城県気仙沼市を訪れた。津波の生々しい被害の爪跡を視察後、大統領は「インドネシア国民の哀悼の意を伝えに来た。アチェで20万人の死者(04年12月のスマトラ沖地震と津波の被害)をだし、その悲しみと苦しみを理解する。日本人は強い人々、きっと復興に成功する」と述べ、復興資金200万ドル(約1億6000万円)を寄付した。大統領は夫人とともに避難所で被災者に声をかけ、励ました。このとき夫妻の目からは涙がとめどなく流れたという。この涙をしっかりと受け止めることも、インドネシアと関わる日本人には必要だろう。
4. インドネシアは両翼に重くのし掛かっていた経済や政治の長年の負荷を軽減し、すでに滑走路を離陸し、今ぐんぐんと高度を上げている最中といえる。巡航高度に達して水平飛行に移るのも間もなくと思われるが、東南アジア通貨危機やリーマンショック、欧州経済危機などの影響を多少は受けながらも、致命的パンチは「独自の方法」で回避してきた「したたかさ」がある以上、今後墜落することはないだろう。だが、失速や高度低下で緊急着陸するような事態が今後起きるかも知れない。「明日のこと知りません」からだ。しかし、その時はその時、また大空目指して滑走を始めればいいのではないか、インドネシアはいつも翼を大きく広げた伝説の神鷲「ガルダ」そのものなのだから。

[コメント]

インドネシアの発展可能性をインドネシア在住のジャーナリスト、大塚智彦氏が見事に書き上げた文章。